

## 2021 年度 RC 活動実績と 2022 年度 RC 活動計画

☆☆☆：目標達成、☆☆：ほぼ達成、☆：一層の努力が必要

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆：「Grow UP 2023」KPI その他：RC 目標)	2021 年度 RC 活動計画	2021 年度 RC 活動実績	評価	2022 年度 RC 活動計画
労働安全衛生	<p>○MGC と協力会社の労働災害撲滅を目指す。労働安全に直接／間接的に影響する要素を様々な評価方法を通じて見える化し、改善への土台を構築する。</p> <p>【2023 年までの労働安全衛生の定量的目標】 ◆重大労働災害<sup>※1</sup> 0 件 MGC 本体 休業、通院 3 回以上の不休業 0 件 協力会社 度数率 0.3 以下 強度率 0.003 以下</p>	<p>(1)事業所の特色有る日常安全活動の充実と確実な対応 (2)類似労働災害の撲滅（「転倒、墜落・転落」への対応） (3)ヒューマンエラー（不安全行動）防止に向けた活動の推進 (4)MGC グループ保安防災ガイドライン【安全文化】の活用 (5)LINK 活動を通じた安全活動の推進 (6)協力会社の労働災害削減の支援推進 (7)職場環境の評価と改善の推進</p>	<p>(1)5S、ヒヤリ・ハット摘出、KY、職場での安全ミーティングに加え、月毎にテーマを変えたキャンペーンの実施、過去事例の教育など事業所に合わせた特色ある日常の安全活動に取り組んだ。 (2)転倒、墜落、転落の危険性のある場所をリストアップし、設備改善、表示等の安全対策を実施した。 (3)外部講師による講演会、指差呼称の定着運動等により、ヒューマンエラーの防止に取り組んだ。 (4)MGC グループ保安防災ガイドラインを RC 監査で使用し、安全文化の現状を調べ、改善に活用した。 (5)製造、工務、研究の三部門で LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、良好事例を事業所間で共有し、安全の推進を図った。 (6)協力会社と災害防止協議会等を開催し情報交換を行うと共に教育設備を開放し、協力会社社員も教育を受けられるようにした。 (7)健康衛生評価を行い、作業環境の改善に取り組んだ。</p> <p>【2023 年までの定量的目標に対する実績】 ・「Grow UP 2023」KPI（2021 年 4 月～2022 年 3 月） 重大労働災害<sup>※1</sup> 1 件 ・RC 目標に対する実績（2021 年 1 月～12 月） MGC 本体 休業 1 件 不休業 1 件 協力会社 度数率 1.62 強度率 0.027</p>	<p>☆☆☆</p>	<p>労働安全衛生および保安防災目標を達成するため、以下の項目を考慮し、各事業所での課題に合わせ、安全作業・安定運転を目指した効果的な活動を推進する。</p> <p>(1)自律的な安全活動 (2)類似労働災害、ヒューマンエラー防止 (3)協力会社の労働災害削減支援 (4)自主的な保安活動 (5)MGC 保安防災ガイドラインおよび MOSMS 診断などの評価ツールを活用した改善活動 (6)MGC スマート・ファクトリーの実現、新技術の導入 (7)保安防災上の危険源の特定および安全を担保する対応（自然災害含む） (8)教育・訓練</p> <p>【RC 重点監査項目】 ・労働安全及び保安防災に係る事業所の課題と改善に向けた取組状況 ・進行型自然災害への対応状況 ・事業所において LINK 活動の展開状況 ・充填荷役における労働安全、保安防災への取組状況</p>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2021 年度 RC 活動計画	2021 年度 RC 活動実績	評価	2022 年度 RC 活動計画
保安防災	<p>○事故ゼロの達成を目指す。保安防災に直接／間接的に影響する要素を様々な評価方法を通じて見える化し、改善への土台を構築する。</p> <p><b>【2023 年までの保安防災の定量目標】</b> ◆重大事故<sup>※2</sup> 0 件 ICCA スコア年間 0; MGC 本体・協力会社とも</p>	<p>(1)設備管理の充実（具体的には生産技術部活動計画に従う） (2)類似異常現象の撲滅（「火災事象」「漏洩事象」への対応） (3)プロセスリスクアセスメントとして全製造設備での HAZOP の計画的な実施 (4)MGC グループ保安防災ガイドライン【安全基盤】の活用 (5)LINK 活動を通じた保安防災活動の推進 (6)保安教育・習得学習の充実 (7)最新情報を基にした地震・津波・降灰等の突発型自然災害、及び風水害等の進行型災害への確実な対応</p>	<p>(1)スマート・ファクトリー実現に向け、担当者会議を開催し、IoT を活用した保安管理システム向上に取り組んだ。 (2)火災や漏洩の対策を再確認し、再発の防止を図った。 (3)外部講師を招き HAZOP 教育を行い、HAZOP 実施者の教育を行った。 (4)MGC グループ保安防災ガイドラインを RC 監査で使用し、保安防災活動の評価に用いた。 (5)製造、工務、研究の三部門でそれぞれ LINK リーダー会議を開催し、安全管理の手順、良好事例を共有し、保安防災活動の推進を図った。 (6)e ラーニングの導入、オンラインセミナーの活用によりコロナ禍でも教育を継続した。 (7)最新のハザードマップを入手し、風水害等の進行型災害に対応するタイムラインの作成に着手した。</p> <p><b>【2023 年までの定量的目標に対する実績】</b> ・「Grow UP 2023」KPI（2021 年 4 月～2022 年 3 月） 重大事故<sup>※2</sup> 0 件 ・RC 目標に対する実績（2021 年 1 月～12 月） ICCA スコア MGC 本体 1、協力会社 3</p>	☆	<p>※2022 年度は、保安防災と労働安全衛生をまとめて、計画をたてた。 よって、保安防災の計画は、上記の労働安全衛生に含まれる。</p>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2021 年度 RC 活動計画	2021 年度 RC 活動実績	評価	2022 年度 RC 活動計画
環境保全	<p>○企業活動を通じて社会貢献と自然環境の保全の両立を目指す。その結果社会からの評価の向上を得る。</p> <p><b>【2023 年までの環境保全の定性/定量目標*】</b></p> <p>(1)◆温室効果ガス(GHG)排出量 *2013 年度比 28%削減 ◆温室効果ガス(GHG)排出原単位*2013 年度比 19.9%削減 ①0.4 万 t-CO2e/年の継続的削減 ②自家発電・ボイラー等の重油の全廃(水島工場、四日市工場) ③購買電力の GHG 排出係数削減(0.45;水島工場) ◆④購買電力の再生可能エネルギー10%導入(全事業所)</p> <p>(2)廃棄物のゼロエミッション ◆*廃棄物ゼロエミッション率*<sup>3</sup> 0.3%以下</p> <p>(3)PRTR 法届出物質の排出量 *2020 年比 10%削減</p> <p>(4)水資源保全 *水再利用率 95%以上 水リスクの特定(国内製造拠点)</p> <p>(5)生物多様性保全 *生物多様性保全の本箱寄贈 累積 10 件 *生物多様性の「目に見える現場」の設置 1 件</p>	<p>(1)温室効果ガス(GHG)排出原単位改善と排出量削減の推進</p> <p>(2)廃棄物のリサイクル促進と資源の効率的使用等を通じての最終処分量の削減</p> <p>(3)PRTR 法届出対象物質の排出削減促進</p> <p>(4)水資源の効率的使用の推進</p> <p>(5)各事業所における水リスクの特定活動推進</p> <p>(6)生物多様性保全の取り組み推進</p> <p>(7)環境貢献製品の取り組み推進</p> <p>(8)環境管理(EMS)の継続的改善</p>	<p>(1)高効率機器の導入、製造設備の運転条件見直し等、継続的な GHG 削減活動を実施した。</p> <p>(2)廃棄物の分別回収、リサイクル、売却処分、燃料化などによる廃棄物削減に取り組んだ。</p> <p>(3)設備改善等により、PRTR 対象物質の排出抑制を図った。</p> <p>(4)安定運転と水の再利用により、水資源の効率的使用に努めた。</p> <p>(5)水に関するリスク/機会事例を調査し、調査結果を CDP 水セキュリティ質問書の回答に反映させた。</p> <p>(6)生物多様性の本箱を寄贈した。</p> <p>(7)環境貢献製品に高断熱性発泡プラスチック「ミラフォーム ラムダ」と「デスライム」を追加認定した。</p> <p>(8)RC 監査で環境管理システムを確認し、問題無い事を確認した。</p> <p><b>【2023 年までの定量的目標に対する実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Grow UP 2023」KPI(2021 年 4 月～2022 年 3 月) 温室効果ガス(GHG)排出量 27%減 温室効果ガス(GHG)排出原単位 13.1%減 廃棄物のゼロエミッション率 0.27%</li> <li>・RC 目標に対する実績(2021 年 1 月～12 月) PRTR 法届出物質の排出量 10%削減 水再利用率 94% 生物多様性保全の本箱 2 件 生物多様性の「目に見える現場」の設置 0 件</li> </ul>	☆☆	<p>以下の項目に関する Grow UP 2023 KPI および環境保全目標を達成するための各種活動を推進する。</p> <p>(1)地球環境問題への取り組み GHG 排出削減 (低 GHG 排出係数電力、再生エネルギーの導入などを含む) 廃棄物削減 水資源保全 生物多様性保全</p> <p>(2)地域環境問題への取り組み 環境に影響を与える要因の継続的改善 (大気、水質、騒音、振動、臭気、PRTR 等)</p> <p><b>【RC 重点監査項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全に係る「Grow UP 2023」KPI 及び目標の達成に向けた計画とその改善状況</li> </ul>

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他:RC 目標)	2021 年度 RC 活動計画	2021 年度 RC 活動実績	評価	2022 年度 RC 活動計画
化学品・製品安全	○化学品・製品の性状と取り扱い方法を明確にし、全ての取扱者の安全と健康、環境を守る。  【2023 年までの化学品・製品安全の定量目標**】 (1) 製品開発における安全評価の段階的な実施(継続) **新規製品の上市・市場開拓の審査 100% (製品数%) (2) 取り扱う製品のリスク評価と管理の推進(継続) **製品安全教育 100% (協議会加盟社数%) (3) 各国の化学物質管理法規に基づく申請・登録の確実な実施 **各国の化学物質管理における物質登録 100% (製品数%) (4) SDS 自動作成システムの運用と展開 **安全性情報 (SDS) の作成と交付 100% (製品数%)	(1)-1. 開発物質・製品の安全性評価の実施(新規物質の申請、危険有害性の分類、安全性情報の作成、リスク評価) (1)-2. 上市・市場開拓審査の実施 (2)-1. 化審法優先評価化学物質への対応 (2)-2. 取扱う製品の適用法規及び安全に関する教育の実施 (3)-1. 日本・米国・中国:化学物質の申請・届出 (3)-2. 欧州・英国・韓国・トルコ:化学物質と輸入者等の登録、登録情報の整理・更新を実施 (3)-3. 台湾・タイ・ベトナム:登録を行う化学物質と輸入者等の調査 (3)-4. 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 (4)-1. 主要外国語版 SDS における記述の最適化 (4)-2. 関係会社が SDS 作成システムを利用できる仕組みの構築	(1) 開発物質・製品の安全性評価と上市・市場開拓審査を行った。 (2) 化審法で評価中の物質に付いて情報提供を行った。 取り扱い化学物質に適用される法令と安全について eラーニング教材を作成し、従業員の教育を行った。 (3) 国内では安衛法に基づく届出を行うと共に、海外についても化学物質登録制度に基づく届け出を行った。 (4) 外国語版 SDS を見直すと共に、関係会社の SDS 作成を開始した。	☆☆☆	化学品・製品安全目標を達成するため、自主的な化学品管理の遂行と並行して国際的な管理の仕組みに対して適切に対応する。  (1) 各審査を通じた開発物質・製品の安全性評価 (2) 取扱い製品に適用される法改正への適切な対応 (3) 取扱化学物質に関する安全教育の実施 (4) 各国の化学物質管理法規情報の収集および登録制度への対応 (5) 国内外の法規に対応した SDS 作成システムの活用および顧客への適切な交付
物流安全	○物流事故、トラブルの撲滅を目指す。 (1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続 (2) グループ会社物流部門との物流安全情報共有化 (3) 届け先荷役作業状況の解析と改善	(1) 物流トラブルの解析と水平展開の継続推進 (2) グループ会社物流部門との物流安全情報共有化の推進 (3) 届け先荷役作業における保安協定書の締結推進	(1) トラブルの集計と解析を行いトラブル情報の水平展開を行った。 (2) グループ会社物流部門に情報を提供し、情報共有を図った。 (3) 保安協定書締結の推進を図った。	☆☆☆	物流安全目標を達成するため、以下の項目を考慮し、抜け漏れの無い安全管理体制の確立を推進する。  (1) 物流上の事故、労災等の解析 (2) 充填荷役における労働安全、保安防災 (3) 監査やアンケートを通じたグループ物流会社との対話強化 (4) 保安協定書の締結率向上
社会との対話	○ステークホルダーからの評価向上を獲得し、信頼醸成を目指す。	(1) コーポレートレポートとホームページの充実 (2) 事業所環境安全報告書の発行推進 (3) 社外からの評価受審の推進 (4) RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進	(1) コーポレートレポート 2021 を発行した。 (2) 事業所の環境安全報告書を発行した。 (3) ISO14001 の外部審査、GHG 第三者検証を受審した。 (4) RC 地域対話及び工場見学会の開催、地元で開催される行事への参加により対話機会の拡大を図った。	☆☆☆	社会との対話目標を達成するため、以下の項目を推進する。  (1) 統合報告書、事業所環境安全報告書、ホームページの充実 (2) RC 地域対話、見学会など対話機会拡大の推進 (3) 社外からの評価受審

	RC 中期計画 2023 (2021 年～2023 年) (◆:「Grow UP 2023」KPI その他: RC 目標)	2021 年度 RC 活動計画	2021 年度 RC 活動実績	評価	2022 年度 RC 活動計画
RC 全般	○MGC グループ一体での環境安全活動推進を目指す。 グループ内コミュニケーションを強化し、安全・保安防災・環境経営の推進を図る。	(1)MGC グループ環境安全推進協議会、連絡会等を通じたコミュニケーションの強化 (2)グループの事故・災害情報共有システムのブラッシュアップと水平展開推進 (3)MGC グループ保安防災ガイドラインを用いた評価と改善の推進 (4)グループ環境保全活動の推進	(1)MGC グループ環境安全推進会議、監査及び担当者連絡会議で、情報共有を行った。 (2)グループ会社との事故、労働災害情報共有手順を改定した。 (3)MGC グループ保安防災ガイドラインに基づいた評価を行った。 (4)MGC グループ環境安全推進会議、監査及び担当者連絡会議で、グループ各社の環境保全活動支援を図った。	☆☆☆	MGC グループの事故災害情報の共有や MGC グループ環境安全推進協議会、MGC グループ環境安全監査等を通じ、一体感を持った環境安全・保安防災活動を推進する。
	○RC 管理システムの継続的な改善を図る。	(1)社内・事業所内組織間の連携による、RC 管理システムの継続的改善	(1)環境室長会議、LINK 活動等を通じ、MGC 各事業所へ働きかけた。		環境安全会議、環境保安室長会議、LINK リーダー会議、RC 監査等により RC 管理システムの継続的改善を図るとともに、RC 活動を通じ人材の育成を図る。

※1 休業災害であって、死亡災害、永久労働不能災害を伴うなど障害補償の対象となった又はその可能性のある障害、休業日数が4日以上であるもの

※2 地域に係る環境汚染や地域住民が被災するなど第三者に脅威を与える事故、重大労災を伴う事故

※3 最終処分量/廃棄物発生量